

海市 (Kaishi) 工房 上演台本

人魚の森

作・しゅう 史奈

演出・小松 幸作

人間は、この世界の中で一番やさしいものだとときいている。そしてかわいそうなものや頼りないものはけっしていじめたり、苦しめたりすることはないときいている。……………

一度、人間が手に取り上げてくれたら、決して無慈悲に捨てることもあるまいと思われる。

人魚は、そう思ったのでありました。

（小川未明 赤い蠟燭と人魚」より）

【登場人物】

小川 武男 私立幼稚園の園長

小川 はる 武男の妻。絵画教室の教師

内海 聡史 はるの兄

（絵画教室の生徒）

吉田 真希 文具屋の娘

金井 絵美子 派遣社員

木田 恭一 靴職人

岩崎 早苗

片岡 健介 歯医者

岡村 明

岡村 智美 明の母親

加納 週刊誌記者を名乗る男

【一】真昼の月

風の音。

はるの声

蟻あひを殺す事に夢中になった時期があった。小学生の頃だ。その遊びを覚えてくれたのは兄だった。

私達は、山の上の小さな村で生まれた。ネオンもコンビニもない集落。

私達は町を見渡せる草はらで遊んだ。……

風の音いつしか小さくなり、都会っぽい歌謡曲が聞こえてくる。

ドリカムや、チャゲ&飛鳥など、二十年くらい前の若者を感じさせる明るい音楽。

全面の明かりがつくと、そこは教室。普段は幼稚園で、そこでクレバス画教室が開かれている。

教室前面はガラス戸になっているという設定なので、上手前あたりにそれを連想させる何かが必要かもしれない。

部屋の中央辺りに大きめの机。パイプ椅子に混じって園児の物らしい小さな椅子があったりする。

お道具入れのボックスに可愛いクッション。げんきなこ。ごあいさつ などとありがちなイラストいりの張り紙。幼い

絵等も貼られている所謂幼稚園の室内に、幾つかのカンバスが持ち込まれている。

舞台奥には、表玄関、教員室等に繋がる廊下。下手前には花道から繋がる小さな庭があって、そこからも教室に入ることが出来る。園児達のサンダルがあったり、或いは、靴箱があってもよい。

誰かに語りかけるように話しているのは、絵画教師の、小川はる。

はる
草はらには必ずテープレコーダーを持っていきました。そこから流れてくる音楽の世界は、私達の生活からはかけ離れていましたが、聞いているうちに、一度も踏み入れた事のないその場所にいるような気がしたものです。

町はキラキラと輝いて見えました。私達は、そこには、楽しくて幸福な生活があり、やさしい、正しい人達が住んでいるのだと信じていたのです。あの可哀相な人魚のように。

人の気配を感じて、声を吹き込んでいたカセットレコーダーのスイッチを切るはる。
入ってきたのは木田恭一。抜き足差し足のような奇妙な歩き方。

はる
　　なんや木田さん、びっくりした

木田
　　しーっ

はる
　　？

木田
　　（口だけで、かくれんぼ）

はる
　　え？

木田
　　（かくれんぼ）

はる
　　ああ、かくれんぼ。彩ちゃん？（と、廊下に顔を出し）あ、探してる、探してる（そこから見えるらしい

い彩に）お父さん？ さあ、先生知らんよ。あっち、かなあ（隠れ場所を探す木田に）行きましたよ、

あっちへ。そんなとこすぐみつかりますよ、子供って頭いいから

もうすぐ時間ですよ

木田、分かってますというように頷き、ウロウロしたあげく又出ていく。
はる、それを微笑ましく見送る。

逝く夏を引き留めようとしてもするるように、絶え間ない蝉しぐれ。
はる、ふと窓に目をやり、

はる お月さん？ こんな時間に……

崩れた感じの男、内海聡史が、一人の女性、岩崎早苗を案内してくる。

そこそこ、その部屋「すみません」などと言う声。

聡史 (顔を出し、はるに) おう

はる ……

聡史 生徒さん、案内してきたっただ。どうぞ

はる ……(女性に目を移し、辛うじて平静を装い) 電話の？

早苗 はい。岩崎です。突然うかがいまして

はる 講師の小川はるです

聡史 (笑って) 講師ねえ

はる 今日から参加出来ますか？

早苗 見学させてください

はる 見学より描いた方が楽しいですよ。

早苗 でも道具も何にも

はる 大丈夫。お貸ししますから。ウチはクレパスだけあればいいんです。水彩でも油絵みたいに色んな道具

はる はいりませんから。

早苗 電話でも言いましたけど、全然経験ないんです

はる 大丈夫。難しいいきまりなんか何にもないんです。誰にでも簡単に始められるのがクレパス画のいい所。

聡史 試しに描いてみてください。

緊張する事ないって。幼稚園借りてやってるらくがきの会や。子供の絵の方がよっぽどうまい。(ずかずかと入ってき、幼児の絵をみている)

はる ……(早苗に)簡単な申込用紙だけ書いて貰えます？

早苗 ええ

はる じゃ、事務室へ。(早苗と行きかけて、動かない聡史に近づき)何しにきたん

聡史 冷たいなあ

はる もうこんといてって言うたやろ

聡史 出来たんやって？

はる ……

聡史 大事な時期なんやろ。先生ごっこなんかやめて家でじっとしての方がええんちゃうか

はる 兄ちゃんに関係ないやろ

聡史 その子のおじさんやで

はる 帰って

聡史 旦那に用事や

はる 幼稚園は休み

聡史 ここにいるって本人が言うてはった

はる ……教室が始まるまでに出て行って。そやないと……警察呼ぶから

聡史 (早苗に) すみません。どうぞ(退場)

(絵を見ながら) いいねえ、子供の絵は。(落ちているおもちゃで遊んだりする)

園長ではるの夫、小川武男が入ってくる。

武男 ああ

聡史 事務室

武男 え?

聡史 新しい生徒さん連れて行きよったけど

武男 そうですか

聡史 まだ(お腹)ぺちゃんこやな

武男 三ヶ月ですから

聡史 あんまり働かせるなよ

武男 はるが続けたいっていうんです。家にいるばかりもよくないらしいです。

聡史 へえ、さいですか。園長先生どの

武男 ……

聡史 やめえな、そんなしゃべり方。肩凝ってくるわ

武男 ……都合する言うても

聡史 立派な幼稚園の園長先生が

武男 雇われ園長なんや。言ったでしょ？ 経営者から、給料貰って働いてるだけなんです

聡史 変わったのう、タケ。一緒に悪さした仲間やないか

武男 お兄さん

聡史 お前にお兄さん言われたない。妹に手つけやがって

武男 サトシ、分かってくれよ。困るねん

聡史 なにが？ なんやったら昔の事その経営者さんに話したってええねんで

武男 ……

聡史 なんとかセミナーでかなり儲けてるんやろ

武男 言うたやろ、半分ボランティアや

聡史 今度一回参加させて貰おかな、セミナーつちゅうやつに

お前が教えてくれるんか。あ？ 生きる喜びなんかを

武男 講師の先生がおる

吉田真希と金井絵美子が入ってくる。

二人 こんにちはあ

武男 ああ、こんにちは。早いですね

聡史　　で、どないすんねん？　園長
武男　　ああ、じゃ、ちよつとこつちへ

武男、先に立って行く。聡史ぶしつけない目で真希と絵美子を見て、去る。

真希　　誰やろ、あの人

絵美子　　うん

真希　　なんか、目つき悪かったねえ

絵美子　　うん

真希　　どないすんねん、ってかなりドス聞いてたで

絵美子　　私見たことある

真希　　うそ

絵美子　　先月もこの辺ウロウロしてた

真希　　（やくざ）これちやうの

絵美子　　まさか

真希　　なんや気持ち悪いなあ

絵美子　　園長せんせの知り合いやろ。大丈夫やって

真希　　ちよ、さっきの答え考えた？　究極の選択

絵美子　　まだ

真希　　早く

絵美子

だってどっちもいややもん

真希

だから究極なんやろ

絵美子

じゃ、真希ちゃんはどう

真希

断然納豆の方……だってゴキブリやで。動くねんよ

絵美子

聞きたいねんけど……裸？

真希

何が

絵美子

だから、首まで納豆に浸かるか、ゴキブリに浸かるかって言うけど、自分は裸なんかなって

真希

ん……そう全裸。すっぱんぽん

絵美子

今考えたやろ

真希

どっちにしたって納豆の方やろ、どう考えても

絵美子

私、となりの人が食べてるだけでも吐き気がするねん

真希

って事はゴキブリ

絵美子

ちよ、待って。大体それ答えて何がわかるんよ

真希

え……その人の弱点

絵美子

今考えたやろ

真希

一番苦しむ刑罰。ほら、痛めつけるより、くすぐり続ける方が重い刑やった時代とかあるやん

絵美子

わけわからへん

真希

じゃ、とりあえずゴキブリって事で……

絵美子

なんで

真希

とりあえずね。ジュース買いに行く？

絵美子

私、持って来たから

絵美子は自分の描きかけの絵をみつめて思案顔。

真希

(絵美子の絵を見て) コレ何

絵美子

柿

真希

これは

絵美子

メロンパン

真希

ああ(一応納得)

絵美子

秋の風物詩 柿とメロンパン」

真希

なんでメロンパン

絵美子

なんとなく

真希

ふうん。けど、なんかこれ

絵美子

なに

真希

ただ丸いだけで、何か

絵美子

最初檸檬やってんだけど、丸く描きすぎたから変えてん

真希

でも、何かメロンパンと言うよりも

絵美子

何にみえる

真希

んゝ皿かな

絵美子

皿の上に皿

真希 立体感がないねん。ほらこういう格子みたいな線いれたらええんちゃう

絵美子 あゝ、そっか。……はよジュース買ってきたら

真希 みんな遅いね。

絵美子 木田さん来てるんとちゃう。ほら、荷物置いてあるもん

真希 ほんまや、どこ行きはったんやろ

絵美子 彩ちゃんと遊んでるんでしょ

真希 ああ

絵美子 今日は片岡さん、くるんかな

真希 なんで

絵美子 気になってるんやろ

真希 え、なにがなにがなになが

絵美子 だっていつも話題になるから

真希 あの人がウチとこの商店街にとつて困りものなんやって話しただけやん。なんでそれが、なんか私が、私になんかなんださっさ

絵美子 なんださっさ？

真希 いや

絵美子 っていうか興奮しすぎ

真希 だって大変な問題やねん。勝手に動き回って議員なんかとも手組んで、このままいったらうっとこみに小さい店なんかせーくんぶ潰されて、新しいデパートにされてまうねんよ

絵美子 そしたら真希ちゃんどこでいつも文房具買った人はどうするの

真希

デパートにも新しい文具店が入るんやわ。キティちゃんやらなんやらキラキラした。

だいたいあのキティどこがええの？ ただの猫やんか。何にでもつけてむかつくわ。だいたいパンにキティ型の焦げ目つけて何が嬉しいん

絵美子

かわいいんやろ

真希

かわいい？ それ食べるんやで、残酷ちゃうか

絵美子

……立ち退いたらお金は貰えるんやろ

真希

貰ったってどうするん。創業四十年やで。地震にもびくともせえへんかった店をなんで売らなあかんの。

お金さえ渡せばなんでも話がつくと思ってるところがめっちゃむかつく。お金あるから言うて

絵美子

歯医者さんって儲かるんかな

真希

そら儲かってるわ。あの白い歯で「元気？」ってなんかいやらしい。むかつくねん

絵美子

……真希ちゃんって何にでもむかつくねんねえ

真希

だって

絵美子

歯医者さんが虫歯だらけって訳にはいかんやろ

真希

それにしたってなんかいやみやん。だいたい歯医者さんてこういうマスクして口隠してるやん

絵美子

それで結構騙されるねんな

真希

そう、取ったらおえっみたいいな

絵美子

片岡さんはそうでもないやん

真希

そうかな。にそにそして「おう、元気？」って、大きい声で。オロナミンのちゃうねんから

絵美子

なにが。……ああ、ははは

真希

おそっ

噂の男、片岡健介登場。

片岡 よう、元気？

絵美子 はあ、元気です

真希 どうも

片岡 なに？ あっ、まきちゃん、今日お宅に伺ったんだよ

真希 立ち退きの話ですか

片岡 うん、お父さんに挨拶にね。ほら、僕組合の係になってるから

真希 追い出されたでしょ

片岡 ま、じよじよにね

真希 無理やと思いますけど

真希、財布を持って出て行く。入ってくる靴職人の木田恭一とすれ違う。

真希 こんにちは

真希 こんにちは

木田 ああ、どうも（教室へ）間に合った、間に合った（と、ふと窓の方に目をやり）

片岡と絵美子 こんにちは

木田 こんにちは（と、言いつつ庭へ。山の方を見上げている）ほんまや……

片岡 どうしたんですか

木田 いや、部屋からやと緑やけど、ここからやと青く見えるって

片岡 山が

木田 うん

片岡 へええ（と言いつつ手帳をめくって何やら考えている）

木田 不思議やなあ……。ね、絵美ちゃん、知ってた？

絵美子 ？

木田 あの山そっちからだと緑で外からだと青なんや

絵美子 ああ

木田 知ってた？

絵美子 はい。前にはる先生が。光の加減らしいですよ、彩ちゃんに聞いたんですか？

木田 お父さんいい事教えてあげるって、いばって

絵美子 でも不思議ですよね、ほんと

木田 嘘つけて言うたんやけど

絵美子 ほんまやったでしょ

木田 ほんまやった

片岡 そう言えば、彩ちゃんは？

木田 庭にほってきました

片岡 え？

木田 もう、座り込んでテコでも動かへんから

絵美子

ああ、池の鯉

木田

そう

絵美子

(木田に) 彩ちゃん、あの池の鯉がお気に入りなんですよ

木田

お父さんはあっち行って」って憎たらしいから、池に落ちても知らんどおって

絵美子

またあ。五才の子供相手にすぐムキになって

木田

あいつ、母親に似て強情やから言い出したら聞きよらへん

絵美子

好きなんやねえ

木田

特に白と赤のまんだら模様のが好きで勝手に名前までつけとうねん

絵美子

なんて

木田

……キテイ、やったかな

絵美子

……キテイ

片岡

そら猫でしょ

木田

俺もそう言うたんやけどね。将来は魚になって一緒に泳ぎたいらしい

片岡
魚にね

木田

そう、魚。絵美ちゃん、どう思う？

絵美子

「彩ちゃんは五才にしたら賢い方ですよ。一人でちゃんと遊べるし

木田

そうかなあ

絵美子

連れてこなくていいんですか

木田

そのうち お父さん」って泣きべそかいて戻ってくるよ

絵美子

自信まんまん

木田 俺はキティなんかには負けへんぞ！

絵美子 魚にライバル意識燃やさんでも

ジュースを手に真希が帰ってくる。

片岡 でもキティちゃんなんてかわいいなあ

真希 片岡さん、あのね

絵美子 (勝手に焦って) 真希ちゃん、ちやうねんちやうねん

真希 なにか

絵美子 だからキティは白赤のまんだらの鯉で、猫じゃないから

真希 ん？

片岡 なにか

真希 あ、だから、ウチのお父さん、あんまり身体の調子よくないんです。あんまり、いやな気持ちにさせんとって欲しいんです

片岡 ま、よく話し合いましょう。

真希 話し合ってたって

スケッチブックやクレパスを抱えた早苗を伴って、はるが入ってくる。

はる すいません、遅れちゃって。(早苗を) 新しく入られる方です。岩崎さん

早苗 岩崎早苗です。初心者ですけど、よろしく願います。

各々 よろしく願います

片岡 みんな初心者みたいなもんだから気にする事ないですよ

はる そしたら、あそこにも座ってください。さっきもお話した通り、好きな絵をまず描いてみてください。

何か、素材が欲しかったらこの辺にあるものを使ってくださいいいし、頭の中にある景色や、イメージを移してみるだけでもいいんです。何にも制約はありませんから。みなさんも、先週からの作業続けてくださいね。何か気付いた事があったら、言っていけますから

早苗、すすめられた場所へ

真希 あれ、セミナーで案内してはった人とちやう？（絵美子に）ほら、この間のダイエットの

絵美子 え？

真希 （早苗に）つるかぎと 鶴甲会館のセミナーにいはりましたよね？

早苗 は、はあ

真希 やっぱり。じゃ、園長先生の紹介で

早苗 まあ

真希 大盛況でしたよね。あんなに人がいるとは思ってませんでした。なあ

絵美子 私ら、園長先生に言うて、無理矢理いれてもろたんです

真希 来月のにも行くつもりしてるんですよ。丸山俊子の「いい男いい女」講座。

あれにもきてはるんですか？

え、いえ、私は……

(近くまで来ていて) どうですか？ すすんできますか？ 吉田さん、いい色出たねえ

真希 はい。でももうちょっと重ねていきたいなって

はる そう。この間はお父さんに随分割引して頂いたんよ。お礼言うといてね

真希 ああ、なんか言うてました

はる いつもすみません

真希 いいえ、はる先生の注文やったら、お父さんいくらでも安くしますから

はる そんな

真希 先生、絵美ちゃんのこれ、何にみえます？

はる 柿でしょ。それから……お面かな

絵美子 お面？

はる あ、えっと、何か、この感じは……おせんべいかな

絵美子 煎餅?! 真希ちゃんが格子の線いれろって言うたから

真希 ちやうって色があかんねん。こんな茶色みたいな色塗るからやねんねん

絵美子 ねんねんって

はる (早苗に) 何か素材使いますか？

早苗 いえ

はる なんでもいいんですよ。

早苗 ……

はる 主人と、お知り合いで？
早苗 ……

作業着姿の青年（明）が顔を出す。

はる なに

明 コピー機の修理ですけど

はる ああ、そしたら教員室にお願いします

明 （見ている）……

はる ？

明 幼稚園ちやうんですか

はる 休みの日に絵の教室してるんですよ

明 へえ。先、トイレ借りていいですか

はる どうぞ、そっち……

明、いきなり携帯を取りだしてメールをみる。それをポケットにしまうと、そのままはるの指した方向へ去る。

はる ……

木田 あの……

はる あ、はい。

木田　こんな感じになったんですけど

はる　どれどれ。わあ、いいやないですか。こんな欲しいわあ

木田　ほんまですか

はる　私、こんな靴履いた事ないもん

片岡　理想の靴ですか

木田　いつか作る時の為にね。ヒールは高すぎず、低すぎず、履いた時、足の裏にはりつくような感じ。デザ

インはシンプルなんやけど、地味すぎないで、女らしく

木田さん、靴と彩ちゃんの話だけにとまらへんねえ

木田　はあ、すみません……

この間に、片岡、携帯が鳴ったらしく電話を耳にあてながら出て行く。

はる　彩ちゃんは？

木田　池の所に

はる　かくれんぼは？

木田　完敗しました

はる　一人で遊んでるん？

木田　おやじのマネして絵描きたいって、じっと座ってあそこ離れへんのです

絵美子　鯉の絵描いてるんや。すごい作品が出来るんと違う

はる　心配やからそろそろみてきはったら（木田が動かないので）木田さん！

木田 はい、先生（と立ち上がり）しやあないなあ

木田、出ていく。廊下でやってきた武男とすれ違い、

武男 ああ

木田 こんにちは

武男 始まっていますか

木田 はい。新しい方が増えましたよ（と、行く）

武男 （皆に愛想良く会釈して顔を出し、はるに）修理の人こなかった？

はる あれ、さっき教員室伝えただけ

武男 そう

はる あっ、あちら岩崎さん、今日から

早苗 （急に指されて、武男を見る）……

武男 あっ……

はる （早苗に）この幼稚園の園長で私の夫です

早苗 よろしく、お願いします

武男 あ、ああ……よろしくです。

はる なんか、セミナーで……

武男 修理の人見てくるわ

はる ちよっと

と、武男を庭の方まで引っ張っていく。

はる なあ、兄ちゃんと会ったん？

武男 ああ

はる なんで

武男 うまいこと断りそびれて

はる 知らんよ。どうするん

武男 どうするって

はる 約束したやんか。今度きたら追い返すって

武男 自分の兄さんでしょ

はる ……

武男 無視したっておしにかけてくるだけや。だろ？

はる お金また貸したんちゃうやろな

武男 聞こえるよ

はる 貸してへんやんな。

武男 はる

はる 貸したん？ 子供が生まれんねんで

武男 こんなとこでやめろよ（行こうと）

はる なあ、ちよう待ってえな

武男 ねえ。ねえ、と言えよ。なあ、じゃなくて……

はる ……兄ちゃんは

武男 兄さん

はる 何よ

武男 やめようよ、そういう口の利き方

はる 夫婦やろ

武男 そんな事言ってるんじゃない

はる じゃ何やねんな。必死でやっところまで頑張ってきたのに。そうやろ？ ちやう？

武男 俺にどうせえ言うねん。あいつが消えてなくならん限りどうにもならへんよ

はる ……変わったなあ、タケちゃん

武男 ……兄弟やな、やっぱり

はる なんやて！ もう一回言うてみい！

はるの大声に、皆が驚く。

と、片岡が飛び込んでくる。

片岡 すいません、彩ちゃんがなくなったらしいんです

一同 ？！

武男 いなくなったって

片岡 池のところこれ（画用紙）と、これだけ。（片岡のもう一方の手には、小さな赤い靴が片方）

はる 木田さんは

片岡 道路に出たかもしれないって、外へ

一瞬の間の後、武男が飛び出していく

騒然となる一同。

はる、不吉な予感に振り返る。そこには真昼の月が鈍く光っているだけ。

不穏な波の音。暗転。

【二】連れ去られた人魚

誰もいない教室。

喪服姿、黒いネクタイをほどいて首から垂らした木田が、庭先にぼんやり佇んでいる。

木田 ……そうや、あの山ほんまに青かった。嘘って言うてごめんな

今日なあ、幼稚園のお友達が歌うたってくれたよ。芋掘りに一緒に行きたかったって。

まこちゃんが持ってきてくれた人形は、宝箱にいられたからな。伊丹のおばちゃんも、良男兄ちゃんも来てくれた。みんな、彩に会いたがってるよ。

なあ、いつまで隠れとうねん。お父さんが、迎えにきたから早く帰ろうや。……
肩車したるから。どこや？

木田、ふらっと立ち上がり、土足のまま教室を通って出て行く。
ややあつて、

喪服の武男が、薄汚れた私服姿の聡史に追い立てられるように連れてこられる。

聡史　　ほら、ここやったらええやろ

武男、振り返ったり、きよろきよろしている

聡史　　なんや、誰か来るんか？

武男　　入るて、入るから乱暴やめてくれ。……あんまり時間ないで

聡史　　ようそんな事言えるな

武男　　声が大きいよ

聡史　　なに

武男　　誰が聞いたとかわからへんやろ

聡史　　うるさい！　なんで金持ってこんかったんや

武男　　だから、こんな事件が起きてそれどころとちやうかつたんや

聡史　　なんで電話にもでえへんねん

武男　　大変やったんや

聡史　　警察引つ張られてどんな目に遭ったと思う？　はなから犯人扱いや

武男

俺は何にも言うてない

聡史

ほしたらはるか。二人で裏切りやがって、

武男

はるは何にも言うてへんよ

聡史

(鼻で笑う)

武男

なに

聡史

前にもこんな事言い合ったな

武男

……

聡史

けど、今度は俺とちゃうで

武男

……疑われたんは前科があるからや。しゃあないやろ

聡史

人ごとみたいに

武男

……容疑は晴れたんやから良かったやないか

聡史

いい気なもんやのう

武男

もう勘弁してくれよ

聡史

それはこっちのセリフや。また首や。今までいくつ首になったと思うか？ パチンコ屋、調理師見習い、

武男

土木作業、塗装業、新聞屋、ピンサロのボーイにエロビデオの販売

聡史

首になったんは自分のせいやろ

武男

ほお、偉そうになあ。いつのまにそんなに偉なったんや。

聡史

嘘で塗り固めて園長先生におさまったやつが

武男

嘘なんかついてない。

聡史

あー？ ついてない？ 星川村のことも？

武男

やめてえな。

聡史

あっちの部屋におる、でぶの会長さんに言うてきたるか。俺らがどんどこで育ったか。どんな事して大きくなってきたか、

武男

サトシ

聡史

なんや

武男

俺とはるがどんなに頑張って来たかわかってくれ

聡史

頑張ったからいうて、変わるもんちやう

武男

……

聡史

じめじめした墓場で息を潜めるみたいに遊んどった。家にも学校にもおる場所ないし、外出たら東台の子にいつつも石投げられる。けどあそこにおったら安心やった。俺らの秘密の場所で、俺とタケとはると三人。楽しかったやんか。

武男

楽しかった？

聡史

おう

武男

そしたらなんであんなことしたんや

聡史

お前はよう知っとうはずや。忘れたなんて言わせへんで。

武男

忘れたよ

聡史

あの草の湿った匂い。あそこで三人息潜めてやったこと

武男

……

聡史

なあ、友達やろ

武男

俺は、もうサトシとはちやう

聡史 俺、あのことずうっと黙ってるねんで。あの事件の時も、今度の事でも

武男 あのこことってなんや（身体がガタガタと震えている）

聡史 俺らが三人で

武男 はるは知らんことや！ 俺かって……全部サトシが勝手にやったんや

聡史 そうか

武男 そうやないか

聡史 埋める事思いついたんはタケやったよな

武男 知らんよ

聡史 俺は一生忘れへんで。あの事かって後悔してない

武男 ……

聡史 何、震えとうねん。そうや、あん時もお前は震えとった。だから俺がこうやって

武男 さわるな！

聡史 はるなんかのどこがええねん

武男 妹やろ

聡史 俺には分かってるで。お前ははるとしかおられへんねん。同じ匂いのするはるとしか

武男 ……

聡史 そやけど、はるとおる限り、お前はやっぱり星川の人間や。町の人間にはなられへん。俺と同じや

武男 子供が生まれるんや

聡史 だから？

武男 ……そっとしといてくれ

悪魔のように笑う聡史。

武男 何がおかしい

聡史 金はいっになる

武男 脅迫するんか

聡史 幸せになれるとでも思っとんか、ぼけ

武男 しあわせになったら、あかんのか？

聡史 しあわせって何や。園長先生、教えてくれ

と、喪服姿の早苗が入ってくる。

早苗 さがしちゃった(聡史に気付き) あ……ごめんなさい(行こうと)

聡史 ああ、ええよ。覚えてますよね？ 俺。こないだの

早苗 ああ、はい。どうも

聡史 待ち合わせ、なんやろね？

早苗 (武男を見て) ……

武男 違うんや

聡史 俺の用事もう終わりましたから、どうぞどうぞ。

(武男に) なかなかやるなあ、お前も。変わりたい、変わりたい、か

武男 サトシ

聡史 そつとしといて欲しいんやろ。わかってるって。明日電話するわ。それまでに用意たのむで

聡史、武男の耳元で何か囁く。

武男、ポケットから財布を取りだし、札を抜き出すと聡史に握らせる。だが、聡史は手を引っ込めない。もう一枚のせる。聡史、財布を奪うと、なから更に何枚か抜き出して武男に返し、

聡史 (早苗に) どうも失礼しました

聡史、出て行く。

早苗 誰なの

武男 カミさんの兄貴

早苗 へえ……

武男 ……

早苗 まずかった？ だって、教員室って言ったのにいないから

武男 いいんだ。はるは？

早苗 大丈夫よ。生徒さんが誰かっていたもの

武男 ん

早苗 お坊さんも大変ね。喪主は倒れるわ、参列者の妊婦は倒れるわじゃ

武男 坊主は型通りのお経あげて帰るだけや

早苗 そうなんだ。……会長ってあの太ったおばさん？ 大泣きしてた

武男 ああ

早苗 やな感じだった……

武男 随分いやみ言われたよ。幼稚園の存続に関わるって

早苗 誰のせいでもないのに

武男 ……コピ―の修理頼んだんは俺や

早苗 だから？

武男 木田さんに合わせる顔がない

早苗 だってそんなの……あの子だって最初から人殺しをしようなんて思ってきたわけじゃないんでしょ

たまたま修理に来て、たまたま可愛い女の子をみて、たまたま……それに、修理の人だって沢山いるのよ。あの犯人が来るかどうかなんて、どっちみち選べなかつたんだから

でも責任感じるよ。もし自分の子供やったら、あの人の立場やったら、修理頼んだ俺の事かって恨むよ

……そうなんだ……。KEEP ON RACING―絶望からの再生

？

セミナーの講座。そんなの、役に立たないわね。ああ、少年法を学ぶ」ってのもあったか。でも用事ってなに

なにが

武男 二人きりで話したいって

早苗 だって……避けてるから

武男

当たり前でしょ。急にここに来られてどれだけ驚いたか

早苗

本当にあのままにするつもりだったの？

武男

……

早苗

……かわいそう。なんでそんな事したんだろ。可愛い子だったのに

武男

……

早苗

私も見たのよ。奥さんと庭を通過って教室に来る途中で。池の前にペタンって座ってたの。身体より大きいスケッチブック抱えて。ピンクのワンピース来て、手なんかこーんなちっちゃくて

武男

やめろよ……

早苗

なあに。また自分の子供だったらって思った？

隣の部屋のお葬式うるさかったわねえ、長洲剛ががん。聞こえなかった？ 故人の希望なんだって。

かと思ったら、孫にヴァイオリン演奏させる、なんて葬儀もあるんだって、友達が言ってた。色々よね

え

武男

……

早苗

でもあの子は、彩ちゃんはお葬式をこうしてください、なんて頼めなかったもんねえ。……

武男

もう骨になっちゃったかな。知ってる？ 解剖されたんだって

早苗

……

武男

土葬にすればよかったのよ。傷ついて解剖までされた身体を焼くなんて

早苗

お前、何言うてるんや

武男

はじめて呼んだね、お前って

早苗

……

早苗 埋め墓うずめはかと参り墓まいりはかの風習を知っていますか。火葬が普及するまでは一般的な物でしたが、今でも関西の辺

境や、九州の一部の地域に残っています。参り墓というのは毎日お参りするお墓。墓石があり、戒名かいみょうが書かれています。そこには何にも入ってない。本当のお墓は、山の上の上の細い道をずうっと登った所にあつてそこには焼いた骨じゃなくて、きれいな人間のままの形で死体が埋められる。それを埋め墓と

武男 ……

樋山ひやま先生の文化歴史講座。俺のと同じやって言つたじゃない

武男 何の話や

早苗 武男はそのままの形でそこに埋められるんですよ。奥さんと一緒に

武男 昔の風習や

早苗 でもそうなんですよ

武男 ひっこいな

早苗 私はいつか白い煙になつてどこにもいなくなるのに、あなたと奥さんはそのままの身体で、土の中で眠り続ける。滅多に誰もこない、山の上の上の、森みたいに静かで冷たい場所

武男 やめてくれ！

早苗 ……
武男 こんな時に……不謹慎や

早苗

「星川村」なんてロマンチックな名前。……ごめん、お兄さんが言っていたの聞いちゃった。星がきれいなんでしょね。田舎の星って全然違うもんね。プラネタリウムみたいだよねやめえ言うてるやろ！

武男

……

武男

星がきれいなんが何や。俺らには、そっからみえる町の方が何倍も光ってみえたんや。何倍も何倍も宝石箱ひっくり返してみたにだから降りてきたの？

早苗

武男

そうや。あそこにさえ行けば違う人間になれると思った

早苗

それで……どうだった？

武男

……

早苗

人間なんてみんな同じよ。大して違わない

武男

違うよ。お前と俺は違う。どこまでいっても同じにはなられへん。はるかってそうや

早苗

どこが

武男

そんなに真っ直ぐ人を見られへん。透き通った白い屈託のない目で

早苗

誉めてるの？

武男

そんな子供みたいな顔で笑われへん。きれいな言葉ではきはきしゃべれへん。見せられるアルバムもない。ピアノ習った事なんかない……

早苗

……まだあるの？

武男

そんなに色が白くない。きれいなマニキュアなんか塗ってない。いい匂いもしない。それから……

早苗

それから？ どうしたの？ 何があったの？ なんて震えてるの？

武男 ……咽がやたらと渴いたんや。渴いて、渴いて……それで森のお宮さんに供えてある水をごくごく

飲んだ。神様の水を

早苗 おいしかった？

武男 ああ。……汚いか？ 不潔か？

早苗 （優しく首を振る）神様も言ったわよ、お飲みなさいって

武男 お飲みなさい？

早苗 そう、いくらでもお飲みなさい、って。神様の水はか洩れる事がないの。後から後から湧いてくるの

武男 ……

早苗 ねえ、私キラキラしてみえた？ 山の上からみた宝石みたい

武男 ああ

早苗 今は？

武男 ……

早苗 私、ここに居るのよ。あなたのすぐ手の届くところに

武男、憑かれたように早苗を抱き締め、二人は激しく抱擁する。熱い息づかい。奥より、「あや！」という声が聞こえ、木田が幽霊のように入ってくる。

武男 木田さん

木田 彩！

武男 どないしました？大丈夫ですか？

木田 ……いや、彩がおらんようになったから、こっちなかと思つて

武男 ……

木田 目離すとすぐ一人でちよこまか行つてもて。あや！

木田、ぐるりと見渡して出て行く。立ち尽くす二人。

遠い海鳴りが聞こえる。

溶暗。

【三】 聖なる告白

数週間後の教室。夕暮れ時。

はるが一人、テープに向かっている。

はる 幼稚園は暫くお休みです。でも私達、あなたのお父ちゃんとお母ちゃんは、掃除をしたり、お花に水を

やりに毎日出てきています。毎日現れていた警察の人の数はやっと減りはじめ、テレビだの週刊誌も他のニュースに興味を移しかけています。でも辛い裁判はまだまだ続くのです。

声 1 被告、岡村明、前に出なさい。

はるの回想の中、岡村明が浮かび上がる。十七才。一見して印象に残りにくい平凡な少年。悪びれない様子

明

……なんやむしゃくしゃして……やりました。暴れたけど、ちよっと脅したら静かになりました

明の若い母親、岡村智美。

乱れた生活が伺える雰囲気。安っぽい服装。

智美

急に警察から電話かかってきて、そろもうびっくりしたのなんのって。……

明

ジュース飲むか、言うたらすぐついてきました。車に乗せて、しばらくしたら、急に泣き出して帰る言うてあばれたから……

昔から子供は好きな方やと思います。けどあんなに泣かれたらいやになるし。……

「お父さん」とか、「ヤテイ」とか言うてました。僕の事を「ワルいや」と言うので、憎らしかった。ビデオ？ 持ってたけど……ただの趣味やから。別にちよっと、どっか連れて行ってあそぼ、と思っただけです。

智美

はい。子供の頃は素直な子で、近所の子ら集めてよう遊んでました。中学にあがるまでは手のかからへん子やっただけです。明を生んだ年？ ……十七になったばっかです。アルバイト先の喫茶店で

知りおうて。ええ、けど高校はちゃんと卒業したんです。だんだんお腹が大きくなってきて、変な目で見る友達もいたけど、肥えたなんて嘘クソついてごまかして……。え？ いやや、今の夫とは違う人です。あんな男、すぐ別れました。子供やっただけです。騙されて、のぼせあがってお腹まで大きくされて。うちがあほやっただけです。あんなスカタン。あれがもつとマシな男やったら明かってもうちょつと、ては思うんですけど……。えっ？ 今の？ ……三人目。あつ籍入れてないのいれたら四人かな。

明

家出たんは中学卒業してからです。一回か二回は帰りましたけど。……あいつがおると、ごちゃごちゃ言われるから……。こずかいはたまに母親から貰ってました。母親……。別に好きでも嫌いでもないです。産んだ人とは思うけど……。

智美

暴力？ そんなん、しつけですよ。しつけ。うちの人、口が悪いだけなんです。良い子やったら、自分の子供と思って可愛がる人やのに、明が言う事聞かへんのが悪いんです。学校へは行かへんし、帰ってこんし。仕事？……。いいえ、今はたまたましてないけど、するときはよう働く人なんです。うちや子に色々買ってくれるし。ああ、明の仕事ですか？ はあ、あんまり……。もう家出たし、自分でやっついて言うでしょう？ そやから安心してたんです。……

そんな事言うたって、こっちかって生活があるでしょう！ 若い時、カスつかまされて子供産んだからって全部我慢せなあかんのですか？！ ……え？ そら旅行ぐらい行きますよ。新婚旅行かって行ってないし。（いきなり後ろを振り返り）何笑っとんねん！ はったおしたんで！！（注意されて少し萎れる）……

明 あの日には朝から仕事出されて、帰ったばかりなのに、上の人に又行け言われて、涼しい所でサボってばかりいる奴もいるのに、何でかな、とか思っていました。……

智美 いいえ！ 愛情は、ありました。お腹痛めて産んだ息子ですもん。……けどまだ下に小さい子が二人もいてるし、とにかく生活もあるし、忙しくて……
下の子らですか？ 明の事は時々くる知り合いのお兄ちゃんみたいに思ってるんや思いますけど……

明 ……悪かったと思います。
言いたいことは別に……謝るしかないのかなと思います

智美 親御さんになんて謝ったらいいか……。もうつらくてつらくて
え？ はあ、まだ行ってませんけど。私も子育てやらパートで忙しいし。行くつもりではいますけど……
……。明の事は……自分の息子であって、息子でない気がします。……はあ、責任があるのは分かっています。けど大きくなった子供を、母親がじっと監視しとく訳にもいかへんでしょ

被害者、木田彩（5）の父親、木田恭一、登場。

声1 奥さんと離婚されてからお一人で彩ちゃんを育ててこられたんですね

木田 清掃業という事ですが、震災前は長田の方で靴工場を経営しておられたとか。
はい

声 1 今も御自宅で靴造りを続けていらっしやるそうですね。彩ちゃんのこの靴も手作りですか

木田 いいえ

声 1 聞くところによると、あなたは過去に二度ほど、飲食店やパチンコ屋で彩ちゃんを置き去りにした事があるそうですね

何か夢中になると、大切な事を忘れてたり、気が荒くなって喧嘩をしまったりする所があるとご友人が証言されていますが

木田 ……

声 1 絵画教室でもしばしば、彩ちゃんはほったらかしになっていたようですね。5才のお子さんをそうやって自分の都合で連れ回したり、一人にしておく事は無責任だとは思われませんか。

木田 ……殺されたのは親のせいやとでも言いたいんですか

声 1 聞かれた事に答えてください

木田 うっかり忘れたのはホンマです。腹たって外に放り出した事かってあります。悪い時はお尻も叩きました。けど…毎晩一緒の布団で寝てました。絵本も読んでやりました。風呂で頭も洗いました。一人にすると、寂しがるからどこにでも連れて行きました。それが、無責任ですか……なんで犯人の弁護するんや？ 彩は独りぼっちで死んだのに、なんで殺した奴には守ってくれる人がいるんや！ ……償う？ ……それやったら、彩と同じ目に遭ってくれ！

声 1 小川はるさん、あなたは園長のご主人と共に2年前からわかば幼稚園に勤務、休日にはクレパス画の技能を生かして大人の絵画教室をはじめられた。そこへ木田さんは通ってきた。そうですね？

思いに耽っていたはる、はじかれたように立ち上がる。

はる　はい。木田さんが教室に来られたのは、半年ほど前です。作りたい靴の絵を描きためておいて、工場を

建て直したら、そんな靴を一足ずつ作るんやって。ええ、いつも彩ちゃんを連れていらっしやいました。大人しい子でちっとも邪魔なんかしないで、お父さんと一緒に絵を描いたり、一人で遊んだりして

いて、他の生徒さんたちにも可愛がられていました。

声1（弁護士）　内海聡史、という人物についてお伺いしたいのですが

はる　……内海聡史は、私の兄です

声1　事件当初は彼に少なからず容疑がかかっていたわけですが、その理由は何だと思われませんか

はる　それは……分かりません

声1　調べによると、内海聡史は高校生の時に殺人事件を犯していますね。その時あなたは十才。

はる　殺されたのは、星川村、東台に住む十八才の女性だった

……

その後、これは成人してからで、傷害事件が一件に未遂が二件

弁護士の声　弁護士の声に被さるように過去の聡史の声が聞こえてくる。

聡史の声　アホンだら！ はなさんかい！」

ナメとったら、しばくぞ」

俺があいつに罰を下したんじゃ、文句あるか！ あの女が礼儀を欠いた事したんが悪いんじゃ」

声 1 間違いないですね

はる はい……

声 1 お兄さんはかなり頻繁に幼稚園を訪れていたようですが、どのようなご用件で

はる ……

声 1 お兄さんのような人間がしばしば訪れるという事で、園児たちへの危険を予期出来たという事はないのでしょうか

はる 兄は、犯人と違います

声 1 過去には犯人だった

はる !

声 1 ご主人とお兄さんは幼馴染みなのですね。失礼ですが、あなた方ご夫婦は幼稚園では過去のお兄さんの事件については隠しておられたわけですね

はる そんな事なんの関係があるんですか？私と主人は、真面目に一生懸命生活して来たんです。何にも悪い事なんかしてへんのです。あの頃の事なんか全部……全部忘れたんです！

動揺した、はるの耳に幻聴が現れる。

声 2 (記者) 嘘つくな！

はる (変わっている声に怯える)

声 2 内海聡史の妹だろ。ちゃんと分かっているんだからさあ、ちよつとだけ話してよ

はる 知りません。私は何にも知りません

声2 謝ったからって許されるとでも思ってたの？

はる あっちいけ！

声1 小川さん？

はる やめてえな、ほっといてえな！ 兄ちゃんの事なんか知らん。ウチ何にも知らん！

声1 どうしました？ 小川さん？

はる ……私は、私らは、…ずっと兄とは会ってへんかったんです。けど一年ほど前に初めて開いた私の展覧会に兄はふらっと何の前触れもなくやってきた。スーツを着て、すごくきちんとして見えました。兄は私とタケちゃんの結婚を祝福してくれ祝儀袋まで出しました。ひと言お祝いが言いたかった。迷惑になるから、これでもう二度とはるの前には現れへんって。けど暫く話すうちに、私らの働く幼稚園を一目見てみたいって言いだしたんです。それで……

相当広いやんけ」 ぞうでもないよ」などという声。

はるが振り返ると、明かりが変化し、聡史を案内して武男がやってくる。

聡史 (照れ臭そうに) よ！

はる うん

武男 (はるに) 生徒さんは？

はる みんな帰りはった

聡史 お前に絵習いたい人がおるとはな

武男 結構、人気あんねんで

聡史 ほう。なんや、ようこそ、とかないんかいな

はる ようこそ？

聡史 お前らの城やろ

武男 俺らの家とちゃうで。

はる 勤め先や。アパートに来てもらったら、御飯でもごちそうできたけど……

聡史 ええよ、家なんか教えんでええ。言うたやろ。二人してがんばったとう場所をみときたかっただけや

はる ……うん

聡史 これ、持ってきた（ビールなど出してくる）差し入れ。乾杯しようや

はる ちよっと、あかんよ、ここでは

聡史 固い事言うなよ

はる タケちゃん

武男 ……ま、ええか。お休みの日やし

はる ばれても知らんよ

三人、ビールを手に取る。

聡史 何て言お。ま、取りあえずお前らの成功を祝して、乾杯！

聡史、明るく飲み始める。武男やはるも、いつのまにかそのペースに巻き込まれている。

聡史　しかし立派やのう。幼稚園って俺が想像しとったのと全然違うねんな
はる　結構古いねんよ。近くの新しい幼稚園に比べたらちよっと見劣りするくらい
聡史　そんな事あるかい。（武男に）うまい事やったなあ。儲かるんやろ
武男　お金の問題ちゃう。俺もはるも子供が好きやから
聡史　やりがいのある仕事みつけたというわけか
武男　まあな
はる　兄ちゃんは？仕事順調？
聡史　おう
はる　どんな仕事？

聡史、ふと外に目をやり、

聡史　あの山、雲の向こうの
はる　……
武男　うん……
聡史　あの上が俺らの森か？
武男　そうや
聡史　あっここから見たらこっちの町は、ごっついええとこに見えたのになあ
なあ、宝石箱ひっくり返したみたいに見えたやんか

武男

……そうやったかな

聡史

東台より大きい家ばかりやって、いつもお前騒いどったやないか

武男

……

聡史

はるかかって覚えてるやろ。タケの奴、いつもいつも下の町を見下ろして、いつかあつちで暮らしたい言うもったやん。

武男

それはサトシやろ。町行って赤い車買って、ドライブするんやって。恋人乗せて。ほら、歌謡曲みたい

はる

に
チャゲアス、やろ

武男

そうそう。ドリカムとか。あれ好きやったなあ、サトシ。かっこええかっこええって。

聡史

あほ、お前かって憧れとったくせに

武男

まあな。☹ 大音量でかけて

聡史

実際は、渚の恋人どころか化石みたいな田舎でチビの妹と三人コソコソ遊んどっやつらが

はる

誰がチビやって！子供やってんからしやあないやろ

聡史

今も変わってへんやないか

はる

もう……（吹き出して）赤い車に渚の恋人？そんなんチャゲアスの歌にでてきたっけ？

聡史

なんやそんなイメージやったんや

武男

お宮さん残ってるかなあ

はる

森の？どうやろ

聡史

（武男に）お前がいつも菓子やら蠟燭盗んどったお宮さん

武男

サトシが取ってこい言うたんやろ

はる タケちゃんが恐がりなん知ってて、一番に行かせて

武男 そうや

聡史 お前ちびった事あるもんな

武男 えー嘘言うな

聡史 ほらあっこでいつか、急に雷が鳴って真っ暗になって……

はる ばあちゃんに人魚の話聞いた日や！

聡史 人魚の子供が絵描いた蠟燭に火が灯った晩には、怖い事がおこる

はる そうそう

武男 知らんでえ。なんや人魚の子供て

はる 人間に育てられたらしあわせになれるやろ思て、人魚のお母さんがお宮さんとこに子供を棄ててん。その子は、蠟燭屋の夫婦に拾われ、大切に育てられた。美しく成長した人魚の娘は、二人への感謝を込めて、蠟燭に絵を描くのを手伝ったんよ。その絵には不思議な力があって、蠟燭は飛ぶように売れた。けど蠟燭屋のおじいさんとおばあさんは、結局お金の魅力に負けて、娘を見せ物小屋に売ってしまうん。人魚はせかされて蠟燭を真っ赤に塗って置いていった

聡史 まっ赤な蠟燭な……

はる 嵐の夜にお母さんの人魚がきて、その蠟燭を全部買うて行くんやけど……それからというものの、真っ暗な雨の降る晩には海鳴りがして、誰も灯してへんのお宮さんにちろちろとそれが灯るたびに、大時化になるねん

聡史 よう覚えてるなあ

はる (武男に) ほんまに忘れてたん？

武男 ……お昼間やお月さんの出てる日やったな

はる 覚えてるんやん

武男 あの日も、はよお宮さんから蠟燭取ってこい、ってサトシがむりやり

はる タケちゃんが走って行ったら急にドーンって音がして真っ暗なって

武男 ……

はる いつまでたっても帰ってこおへんから、兄ちゃんに見に行ったら、タケちゃんお宮さんの前でしゃがみ

こんで泣いとった

武男 泣いてへんわい

聡史 ちびとった

武男 ちびってへん。ちびっても泣いてもないでえ！

はる 何むきになっとん。子供の時の事やん

武男 ……お宮さんの蠟燭に火が灯とったんや

はる 嵐みたいな風が吹いとったのに？

武男 うん

はる お月さんが消えて、すぐ雨が降ってきてんで

武男 けど、走って行ってみたら確かに明かりがついとってん。どきっとして動かれへんようになって……

風がいつのまにか強くなっている。微かに海鳴りが聞こえてくる。

武男 あれからどうしたんやっただけ……

はる 雨の中で儀式をしたんよ

武男 病気の金魚を埋めたんや

はる そう、ブチ猫やらひよこさんの隣に

聡史 三人の儀式か。いまでも先代のじいさんやババアと一緒に埋まっとんやろか

はる ……

聡史 な、今度三人で行ってみいひんか

はる どこへ？

聡史 あっこや。俺らの秘密の森

はる ……何言うとん

聡史 もう十年以上行ってへんねんで

武男 俺らかって

聡史 だから

はる 行けるわけないやろ！！

聡史 なんで

はる なんでって。兄ちゃん自分があそこで何したか忘れたん！？ あそこで？ 私らの森で？

間

聡史 ビール、もうちよっと買ってくるか

武男 いや……もう日も暮れたし

聡史 ほしたら場所変えて飲み直すか、三人で、パーツと

はる タケちゃん、セミナーの仕事が残ってるねん。兄ちゃんかって明日仕事なんやろ

聡史 俺は……この間まではやっと思ったけど、今ちよつとな

二人 ……

聡史 いやその事も実は話したかったんやけど、ちよつと用立てて貰えへんかと思つて

はる ……

聡史 すぐ返すよ。一回だけや。迷惑かけへんから

はる 全部、嘘やんか！私らの幼稚園みてみたいやの、お祝いが言いたかっただけやの

聡史 それはほんまの気持やで

はる 嘘！何が迷惑かけへんよ。聞いて呆れるわ！兄ちゃん……やっぱり全然変わってへんかったんや

聡史 変わる？そんな簡単に変わるか！……町での生活は楽しいのう。西も東もない。誰も俺らの事なん

か知らん。生まれた場所も分からんし、人殺しかって隠して生きていける

武男 サトシ

聡史 俺は見返してやりたかっただけや。自分の為だけとちやう。お前らの事も考えて、やったんや。

自分らだけしあわせになれるなんて思うなよ。また来るわ

聡史、出て行く。

武男 ……ほつといて大丈夫かな

妻の表情を伺う武男。だがはるは凍り付いたまま。

武男、仕方なく聡史を追いかけて退場。

一人残される、はる。回想から現実に戻って行く。

はる

海を渡り、町を越え、山の上のお宮さんの前に子供を産みおとした人魚の話は、あの森の事など忘れた
つもりの私の心に、何故かはっきり残っていました。嵐の中でちろちろと燃え続けた蠟燭のように。

あの日から、兄は私達のもとに頻繁に現れるようになりました。……

ふと、山に目をやった彼女の目に、何か揺れて光るものが……

はる

あっ、光ってる！

嵐を予感させる雷の音。突然、暗転。

【四】伝説の村

幼稚園。何も変わっていないようにも見えるが、どことなく空気が違っている。

さっきまで子供が遊んでいたような雰囲気が無くなっているのだ。

武男と早苗。

早苗 お墓で遊ぶなんて恐くなかったの？

武男 そこだけが、ほっと出来る場所だったんや

早苗 埋め墓は、遺体を埋めてある場所で不浄の場所とされ、滅多に人が足を踏み入れませんでした。……
武男 よく覚えてるね

早苗 これでもセミナー主催者の一人よ。でも変だよ。骨のひとかけらも入ってない参り墓の方には毎日お参りして、身体全部が埋まってる方は忌み嫌うなんて

武男 風習や。……そやのに、誰がお参りしてるんか、お宮さんには酒や食い物がいつも供えられてて、
蠟燭がぽっと灯る晩があるんや。そういう日は必ず不幸が起きる

早苗 それが、人魚の復讐ってわけ

武男 ……

早苗 その話私も知ってる。子供の時、絵本で読んだの。子供の本とは思えない、怖い話だなんて思ったの覚えてる

武男 ……

早苗 聞いている？だからそれは童話、作り話なの。あなたの生まれた所がその伝説の村だなんて事ありえないの

武男 でもほんまに蠟燭が灯った晩には、誰かが死んだり、嵐が起きたりしたんや。恐いんやけど俺等は、なんやそういう晩はかえってドキドキして、帰りたくなくて、一晩中、三人でお宮さん所から町やら海を眺めとった

早苗 奥さんのお兄さんが、事件を起こしたのもそんな日だったの？

武男 どうかな

早苗 殺した人をそこに埋めたんでしょ。あなた方の秘密の場所に

武男 ……

早苗 埋葬するって感じだったのかな

武男 ……

早苗 (窓の外をみて) 全然。雨なんか一滴も降りそうにないわよ、今日は

武男 …… 晴れ女なんやろ、いっつもいばっとうやんか

早苗 つまんない、晴れ女なんか

武男 もう、そろそろや。誰かに会うとまずいから

早苗 まずいなら、もっと別の場所で会ってくれたらいいのに

武男 自分がもう一度、ここに来てみたい言うたんやろ

早苗 後悔するぞ。晴れ女を逃がしたら、毎日雨かも

武男 ……ごめん

早苗 ……人魚だって復讐するんだもん、人間だってそれくらいしたっていいのかもねえ

武男 ……

早苗 ばかね、私の事じゃないわよ。好きとか嫌いとか小さい事に思えてきちゃった

早苗 早苗、出て行く。武男、そのままじっと逡巡しているが、ふと、おいかげようと……

そこへ、ケチャップとマヨネーズ?」 そう、ごはんの上にだーっと」 じゃあ、マヨネーズ、かなあ」などという声。
絵美子と真希が入ってくる。

武男

二人

武男

真希

絵美子

真希

絵美子

真希

絵美子

真希

絵美子

真希

絵美子

真希

絵美子

真希

あ

あ

ちよ、ちよ、ちよとすぐ（などといいながら走って出て行く）

見た？ 先に出ていったん、あの人やろ

さあ

言うた通り。絶対やって

そんな憶測で……

だって、はじめてあの人がここに来た時園長先生めっちゃ動揺してたもん。葬儀の時かって、はる先生

倒れたのにいっつも傍におらんと、後から二人同時に戻ってきたやん。見たやろ

ん……（絵の準備を始めている）

ではおたずねします。あなたが男だったとします

また究極の選択？

あなたは納豆ずきな男で毎日食べています。

自分が納豆ずきなやん

いいから！ 毎日毎日納豆を死ぬまで食べる事が決まってるんです。ところが、ある日たまにたらこを

食べてみたいな、と思いました。でももし、たらこを一回食べたなら、もう二度と納豆を食べる事はでき

なくなるかもです。

なんで？

なんでも

絵美子

そしたら、今度は毎日たらこを食べるん

真希

そうとも限りません。たらこは、食べたあと、どうなるか分からへんのです。時々たらこで、時々納豆になるかもしれへん。けど、納豆もたらこも食べられへんようになる可能性もあるんです。でもあなたは今無性にたらこが食べてみたい。涎がでるほど食べてみたい。さあ、どうする？

絵美子

なによ、それ

真希

園長先生の心の揺れ動きを的確に表してみてんよ。いつもある納豆と、食べた事のないたらこの間で揺れる男心

絵美子

はあ？

真希

どんなに納豆が好きでもそれが永遠に続くと思うと、別のもんが食べたくなる、そこで人間は究極の選択を迫られる！ わからへんかなあ

絵美子

でも……失礼やと思うけどな。たらこはええとしても、納豆とかに例えるんは……

真希

……じゃじゃじゃあ……別のね。誰にも失礼にならないのにします。……えっと、あなたは無人島にいます

絵美子

ありがちやねえ

真希

えーと、心がすごくきれいで、顔がかなり見苦しい男の人と、すごいイケメンなんやけど、性格最悪の男の人どうですか

絵美子

どうですか、ってそれ、無人島の意味全然くない？

真希

なくくない？

絵美子

だからくない

真希

なくなくくない

絵美子

なくななくななく

真希

絵美子

あっじゃあ、ぶさいくの方は、すっぽんぽんで生活していることにします
なんで

真希

無人島やから

絵美子

ああ(分かったような分からんような)……で？ それで何が分かるんよ

真希

何か分かるやろ

絵美子

誠実さかな。ブサイク選んだ人が誠実、とか

真希

すっぽんぽんやで

絵美子

その要素必ず加えんとあかんの？

真希

一応定番で

絵美子

定番で

真希

イケメン選んだ方が正直とも言えるやん

絵美子

ブサイク選んだ人は正直とちゃうの

真希

それはそれで、好きずきていうか

絵美子

裸ずき？

真希

かな

絵美子

わけ分からへん

真希

うん……無人島行ったらみんなすっぽんぽんになって、三人仲良く暮らすかもしれないねえ……

絵美子

(と、ひとりごちる。ふと、絵美子の絵を見て) それ、何か亀みたいになってきたなあ
亀？メロンパンが？

真希 なんもそんな緑に塗らんかって

絵美子 茶色はあかんで言うたから

真希 色が濃すぎるねん。模様も入ってどうみても亀の甲羅やん

絵美子 真希ちゃんがいらんことばっかり言うからやんか

真希、何やら外を伺って、

真希 ちようちよう、やっぱりあれ、記者かなんかちやう。門の所にじいっと立って行ったり来たりして

絵美子 また？私ら聞かれても何にも知らんのにねえ

真希 はる先生や園長を待ち伏せしてるんやわ

絵美子 なんで

真希 だから！さっきの話聞いてなかったん。はる先生のお兄さんって言うのが……

絵美子 聞いてたよ。私も似たような記事読んだし

真希 なあ、それってあの人やろ。あの日ここで見た、気持ち悪い男

絵美子 お兄さん？

真希 そう言うたらあんとときの目つきかって、おかしかったわ

絵美子 あの人が彩ちゃん殺したわけちゃうやん

真希 けどそんな人が身近にウロウロしとったって思っただけで気持ち悪いやんか。

絵美子 十年以上前の話やろ

真希 何年前かって人殺しは人殺しやん。それにたった三年少年院に入っただけやねんよ、人殺して。どうい

うこと？

絵美子 どういうことって、私に言われても。

真希 何にも悪くない娘さんが苦しい思いして殺されて、犯人は十年以上も生きて、偉そうな顔して食べたり

飲んだり生活したりして変やんか

絵美子 そやから法律が改正されたり、いろいろ、ほら、今はまた変わってるんやない？

真希 そしたら、あの彩ちゃん殺した奴は死刑になる？

絵美子 さあ……どうやろ

真希 仇討ちってあったやん

絵美子 江戸時代？

真希 私復活したらええのになって思う事あるわ

絵美子 ……

真希 だって、彩ちゃん殺したあの犯人、長生きするかもしれへんねんよ。誰かと結婚して、彩ちゃんみたい

なかわいい子供育てるかもしれへん。そんなんおかしすぎるわ

絵美子 ……

真希の口調はあくまでも世間話風で、重みはない。

真希 (菓子など食べつつ) だいたい法律って絶対正しいって言われへんよね。もし、法律が犯人を生かして

あげなさいって決めたって、みんなが納得できる訳ないって感じ

間

真希

でもさあ、殺人犯の妹ってことやろ、はる先生……やっぱりそう聞くと気持悪いなあ。血は争えんものやってお父さんも言うてたし

絵美子

……

ほら、こんな言うたらあかんかもしれへんけど、週誌なんかにも色々のってたでしよ。育ちとか親とかってどうしても人間染みついてるから、はる先生かってどっかお兄さんの血をひいた所があるかもしれへし

絵美子

……お父さん、はる先生のファンやったんちゃうの？

真希

古い人間やもん。あんなん知ったらもう怖がって、今日かて行くなかって言われたわ

絵美子

そしたらなんで今日ここ来たんよ

真希

？

絵美子

こんかったら良かったのに

真希

だって、そら、みんなで彩ちゃんに絵贈ろうって

絵美子

彩ちゃん、私らの絵なんか貰って浮かばれるやろかな

真希

なによ急に

絵美子

犯人が死刑になったら浮かばれるんやろか

真希

？

絵美子

死刑になると、誰かに殺されるのどっちがいいですか？

真希

……

絵美子 究極の選択です。もし、あなたが大切な人を殺されたとして、犯人が死刑にされるのと、自分で殺すのとどっちがいいですか

真希 絵美ちゃん、ちょっと恐い事言わんという。殺すとか、死刑とかもうやめよ

絵美子 自分が言い出したんやん。法律がおかしいとか、納得できへんとか。

真希 それは、被害者の事を考えると、

絵美子 だから、先生の事も気持ち悪いんやろ。悪い育ちが染みついていると思うんやろ。育ちって自分で変えられるの？親とか兄弟とか最初から決められてるのどうしたらいいの？

真希 ……

絵美子 ……もし、法律で仇討ちが決められてたら、親に殺された子供は誰が仇とってくれるんやろ。憎い相手が親やったらどないしたらえんやろ

真希 ……

絵美子 私、親が嫌いで、逃げたくて逃げたくて出てきたの

真希 ……

片岡が、入ってくる。

片岡 よう、元気？

真希 ……

絵美子 ……

片岡 元気な訳ないか。来てはみたものの……なんか描く気しないよなあ。（絵を出して）他に出来ること

真希

……自画像です
たったないけど、こんな絵贈っても迷惑じゃないかな僕の故郷の風景画なんて、5才の子供に喜ばれないだろうと思うんだよね（などといいつつ準備を始める。真希に、）それは？

片岡

あつ、自画像だったんだ、それ

真希

なんですか

片岡

いや。かわいいよ（と、なにげに見比べて）……

真希

なにか

片岡

いやいや

真希

思いのままに自由に、っていつもはる先生言うてるやないですか

片岡

そうだよ、だからいいよ。いいって。願望そのままにって感じで

真希

はあ？！

片岡

いやいや（と、絵美子の絵に逃げて）おっ、いいね。だんだん亀らしくなってきた

真希

片岡さん、絵美ちゃんのこれ……

絵美子

亀です

真希

え？

絵美子

絶対亀です！ 誰が何と言おうと

真希

……

片岡

なんか俺、悪い事言った？

真希

マスク、したらどないですか？

片岡

マスク？

真希 歯医者さんのマスク。しといた方がもてると思いますよ

片岡 ああ、なるほどね

怪しげな記者加納入ってくる。

加納 すみません、ちょっといいですかね

真希 あっ(さっきの男なのだ)

加納 今日は、園長先生や奥さんは？

片岡 どなたですか

加納 お話をね、お伺いしたいんですが

片岡 勝手に入っていいんですか

加納 一応ね、許可の方は

片岡 名刺は

加納 ああ、はいはいはいはい(と、もたもた出す)

片岡 お話することないですよ。当事者でもないのに家や職場なんかにもこられて、みんな迷惑してるんです

加納 あああ、恐縮です

真希 (絵美子に) さっき門のとこ立ってた人

絵美子 ……

加納 ただ、世間が注目してる事件ですからね、ほんの少しだけでも今後こういう事件がおこらないよう

にご協力頂けたらと思うんですが

片岡 週刊誌の記者に話したからって今後こんな事件が減るんですか

加納 まあね、そうあって欲しいという思いをこめて記事を書いたりしてるわけなんですよ、我々は。

えーっと、こちらの絵画教室で講師をされている小川はるさんですが、どんな先生だったですかね

……

加納 どんな事でもいいんです。そちらの方は？

真希 いい先生です。親切やし

加納 その方のお兄さんにお会いになった事は？

真希 ……

加納 いやいや、ご存じかもしれませんが、実はそのお兄さんというのがですね、ちょっと問題のある方で

片岡 帰りなさい！ 好奇心だけの三流雑誌に話す事なんかなんにもない！ ほら、帰りなさい！

片岡、加納を押し出すようにして追い出す。

服装の乱れなど直しつつ、

片岡 俺、ああいうの大嫌いなんだ。震災の時なんかもさあ、興味本位に書かれて、ウチの前で写真何枚もと

って。今度の事だって、まるで喜んでるみたいに騒いで。最近、ああいうのから電話、かかってこなか

った？

真希、頷く。絵美子も曖昧にはあるが、頷く。

片岡 あんな奴がある事ない事おもしろがって書くからおかしくなってくる。本気にして、彩ちゃんの事件となんの関係もないのに、はる先生の事色眼鏡でみたり、血は争えないなんて本気で言うバカが出てきたりするんだよ

真希 ……

片岡 お兄さんの事隠してた隠してたって言うけど、別に公表しなきゃいけない義務なんか無いし、はる先生こそ災難だよ、

真希 でも……実際恐い事件がおこったんやし、前のある人が又なんかするって事ようあるんやから、書き立てられてもしかたないところあると違いますか。誰だって、ちよつとでも危ないところからは離れてたいと思うし

片岡 そりやそうだけど

真希 片岡さんはよそ者やから分からへんねんわ。ウチのお父さんみたいな年とった人間が何を大事に守ってきたか、とか、その為にどんだけ気をつけてきたか、とか。そやから、自分とこの利益ばかり考えて、町ごと変えてしまおうなんていう考えになるんや。素性のわからへんよそ者が入ってきてから、おかしなってきたってお父さん言うてたもん

片岡 ……

真希 ……私、ジュース買ってくる

真希、出ていく。

片岡 彼女の家も立ち退くことになったんだ。

絵美子

……そうですか

片岡

絵美子

お父さんは、時代は変わって行くからって言うてくれたんだけど……難しいね
さっき……かっこよかったです

片岡

え？

絵美子

片岡

記者が来た時。すかっとしました。あの、マスクしてなくてもいけると思います
ははは……もてないんだよねえ。ババつきだし

絵美子

過保護のお母さん？

片岡

あれ、そんな話したっけ

絵美子

お母さんがいなかったら歯医者にはなれてなかったって、前に

片岡

よくおぼえてるね

絵美子

片岡さん、お母さんの事話す時すごく嬉しそうやったから

片岡

ははは、だけど実は、あの人のお陰で嫁の来てがなくなってるね。女の子は難しいよ

絵美子

そうですか

片岡

優しい人ならいいって言うてみたり、お金がなくなっちゃって言うてみたり

絵美子

誠実さ、ですよ、結局

片岡

誠実さか。なかなか表す機会もないからなあ

絵美子

あの（咳払い）……心がすごくきれいで、顔がかなり見苦しい女のひと、すごい美人なんやけど、性格最悪の女性どっち趣味ですか

片岡

え？

絵美子

あつ、ちなみにそこは無人島です。意味ないですけど

片岡 意味ないの？

絵美子 はあ

片岡 でも無人島なんだ

絵美子 そうです。あつ、それですつぽんぽんです

片岡 へ？

絵美子 ぶさいくの方です。それも大して意味ないんですけど、一応

片岡 ん……裸か……

絵美子 裸ずきですか？

片岡 いやあ……毎日人の歯ばっかりみてるからねえ

絵美子 はあ

片岡 ……

会話が噛み合っているような、そうでもないような二人。
武男がやってくる。

片岡 おはようございます

絵美子 おはようございます

武男 どうも、さつきは……吉田さんは？

絵美子 飲み物買いに

武男 そうですか。実は……はるが身体の具合が悪くて。来るって言うてたんですけど、ちょっと

真希が帰ってくる。少し表情が硬い。

武男 どうも。今も話してたんだけど、はるが来られなくなってしまった。

絵美子 大事な時やから

武男 いや

片岡 そうですよ。こんな事があって、赤ちゃんに何かあったら取り返しがつかないから

武男 実は……ちょっと駄目になってしまった

三人 ……

武男 その、子供の方が……

真希 え？

武男 やっぱりショックやったんやと思います。彩ちゃんの事もかわいがってたし

片岡 何にも知らなくて……残念な事でした

武男 いえ。時間が解決してくれるんじゃないかと。……木田さんの方はそうもいかへんやろけど

あ、私達のことでも、みなさんにご迷惑をかけてしまい申し訳ありませんでした

片岡 やめてくださいよ

武男 実は、私、今月いっぱい園長を辞める事になりました。

三人 ……

武男 いろいろと責任問題もあって

真希 絵画教室は？

武男　それも、今月で

片岡　そうですか……それじゃどうしますか、絵は？

武男　みなさんで決めてくださいってのは言っていました。自分も最後まで協力はしたいって

片岡　みんなの描いた絵を彩ちゃんにとって話でしたけど、かえって木田さんを苦しめるような気もして

絵美子　あの……

武男　はい？

絵美子　キティの絵を描くのはどうでしょう？彩ちゃんの好きやったキティを

武男　猫の？

真希　鯉なんです。庭の池にいる白と赤のまんだら。 (絵美子に) それ、ええわ！

絵美子　ん

片岡　いいね！園長、いいんじゃないでしょうか、それで

武男　じゃそうしましょう。どうぞ、とりかかってください。今日は誰も教えられない人間がいないですけど

真希　大丈夫。いつも通り思いのままに自由に！ (絵美子に) な

みな思い思いの準備を始める。

日差し、更に明るく、

武男　晴れ女か……

武男、窓の外を眩しげに眺めている。

絵美子 あのこと……園長先生、

武男 ？

絵美子 納豆とたらこ、どっちが好きですか？

真希 絵美ちゃん！

武男 んー、毎日食べるなら、納豆かなあ

絵美子 はる先生早く元気になるといいですね

武男 ありがとうございます

武男、ふと耳を澄ますが、何にも聞こえない。

何事もなかったような、穏やかな午後が過ぎていく。

溶暗。

【五】人魚の靴

雨が降っている。

同じ幼稚園。少しやつれたはるが佇んでいる。もう妊婦服ではない。テーブルクーダーにむかっている。

はる

大間は、この世界の中で一番やさしいものだときいている。そしてかわいそうなものや頼りないものはけっしていじめたり、苦しめたりすることはなくときいている。

一度、人間が手に取り上げてくれたら、決して無慈悲に捨てることもあるまいと思われる。

人魚は、そう思ったのであります。……

でも裏切られたんや。人魚の娘は遠い南の国の見せ物小屋に売られた。獣たちと同じ檻に入れられて連れていかれたんです。

その夜に、赤い蝋燭を買いに来たんは母親の人魚。それ以来、不幸が続いて町は滅んでいくんです。

私やったらどないするかなって、そんな事よく考えました。

私なら、全身全霊をかけて子供の復讐が出来るやろかって。

復讐、そうでしょう、あれは復讐なんでしょう

はるの手はお腹に置かれている。

私なら、私がお母さんなら、……

はる、カセットを切る。

ふっと、お腹をさする。

はる

ごめんね……

雨足が強い。はる、耳を澄ます。

雨音に混じって、ごーっという波の音が聞こえるのだ。荒れ狂う海に思いを馳せるはる。

と、教員室から電話の音。鳴りやまない。時計を見てから、はる出て行く。

暫くして入ってきたのは木田。すっかり面変わりした彼は、何やら箱を抱えている。

彼を追いかけるように、入ってくる片岡。

片岡　　木田さん！ やっぱり木田さんだ。門の所で見えて追いかけてきたんですよ。

木田　　どうも。いろいろご迷惑おかけしました

片岡　　いやそんな。随分濡れちゃいましたね。(ミニタオルを出し) これ、使います？

木田　　ありがとうございます

木田頭を下げ、受け取り、黙って髪や身体を拭く。

片岡　　今日は？

木田　　ちょっと

片岡　　ああ。いや僕はねえ、今日の教室はお休みするんですけど。えっと(と、見直し) あったあった！ この絵を忘れちゃいまして

木田　　……

片岡　　これね、故郷の絵なんです。千葉の方なんですけど、母親に見せようかと。……ぼけてるんですよ。

だからわかりやしないんですけど

お母さん

片岡 ええ。もとは恐い母親でね、女手一つで育ててくれたんです。あの人の教育がなかったら、歯医者になんかなれなかったと思うんですよ。いつもぴしっと着物なんかきちゃって。それが、別人みたいに……いや、今日病院に入れるんですよ。それで、こんな絵でも持たせてやりや喜ぶかなってすみません。なんでこんな事、こんな話聞く気分じゃないですよ

木田、
つと手を伸ばしてその絵を手取る

木田
へえ

片岡
なんか、なんなのかな、人間って思いますよね。

死にもぐるいで息子育てて、今はその息子の名前も覚えてないよそ者なんて言われるのがくやしくて、商売広げて、町の為になんて動き回って、余計に嫌われたりして、そんな事もなんか全然意味ないかなって

……

片岡
あ……僕一人でおかしな事べらべらと……

ほんと、すみません。一日中マスクしとけて母親にも言われてたんです

木田
……生きてはるだけ……いいやないですか

片岡
木田さん

木田
優しくしてあげて下さい

片岡 (木田から絵を受け取り) ……

はるが戻ってくる。

はる 片岡さん？

片岡 あ、

はる 今日はお休みって

片岡 そうなんです。ちょっと忘れ物を……。来週はあるんですよ

はる はい、来週が最後です

片岡 必ず来ます。木田さん、そしたら

挨拶して去る片岡に、小さく頭を下げる木田。

はる すみません。ちょっと電話があって。待ちました？

木田 いえ……

はる、テープレコーダーを片付けながら、木田に話しかける。

はる 子供がお腹にいる間に、母親がどんな風に育って、父親と出会って結婚したか、どんな気持で生まれてくるのを待ってたか、そんな事残しておいてやりたくて、毎日少しずつ吹き込んでたんです

木田

……

はる もうここには誰もいてへんから意味ないんですけど、いつの間にか、子供の為じゃなくて自分の為みたいになってたから……

はる、大きな紙袋を抱えてくる。

はる 彩ちゃんのお荷物、この袋にまとめておきました

木田 昼寝用のパジャマなんかは

はる それも全部

木田 ありがとうございます

木田、袋をのぞきこんで、おもちゃを取り出す。

はる それは幼稚園のなんですけど、お気に入りやったから……供えてあげてください

木田 すみません

はる いえ、そんな事しか出来なくて

木田、次に紙バックや色紙などを組み合わせて作った、へんてこりんな工作を取り出す。彩の作ったものらしい。

はる 何か分かります？

木田 なんやろ。カメラ？

はる ブー

木田 目覚まし時計

はる ブー

木田 うーん

はる 降参？

木田 はい

はる お弁当箱。空飛ぶお弁当箱です

木田 空飛ぶ弁当箱？

はる これ羽なんです。潮干狩りの時、彩ちゃんお弁当忘れてきたでしょ

木田 ああ……それで、しげしげとみて、けどこの弁当箱じゃワインナーも卵焼きも全部落っこちてまうな

はる ほんま。……子供って楽しい事考えますね

はる、 傍らに置いていた一枚の画用紙を出す。

はる これ……あの時の描きかけの絵。私がずっと預かってました。

木田 キティや

はる ……はい

木田 これは

はる そうその三角みたいな図形二つ、私も何かなって

木田 石

はる こんな大きいの？

木田 キティの……弁当箱！

はる え？

木田 いや、大人の頭は固くて

はる 私かって

木田 なんでやろ……塗り絵、得意やったのに、えらい滅茶苦茶に塗りつぶして。……何があったんやろか。あそこで、池の前で。キティは全部見てたんやろか……

はる ……木田さん

木田 すいません。これ

木田、抱えてきた箱をはるに渡す。

はる え？

木田 あけてみて

はるが箱を開けると、中から出てきたのは手作りの革靴。

はる ……

木田 そんな履いた事ないって

はる 私に？

木田 (頷いて) 履いてみて

はる、すすめられるままに靴を脱ぎ、足をそっと入れてみる。

はる こんな高価なもの……

木田 (okと) よう似合う

はる けど

木田 歩いてみて……(そろりと歩くはるを見つめ) あいつもこんな履きたかったのかな。靴屋の娘が、スパーの安物履いたまま連れていかれてしもて。

木田の口調の明るさがはるの心に沁みる。

はる あっ靴！

木田 ？

はる (先程の彩の絵を指差して) これ、靴とちやうやろか。

木田 ……

はる ね！ そうですよね、きっと

木田 さすが靴屋の娘やな

はる ほんま

木田 ……そうや、羽のはえた靴、言うのはどうでしょう

はる ?

木田 いや、靴に羽がはえてたら、飛んで逃げられたんちゃうかな

はる 木田さん……

木田 ……首に、くっつきり手の跡が付いてました。……ぎゅうっと締められてバタバタ足動かして、最後の

最後に「お父さん」って呼んだらしいんです。犯人に教えて貰いました。

はる 木田さん……私許せません。我慢できません。私ら、こんな近くにいたのに、どうして気付かなかったんでしょう。なんで芋掘りや、お誕生日会を楽しみにしてた彩ちゃんがそんな目にあわなあかんかったんでしょう。なんで……

木田 一生懸命生きてたら神様は必ず応援してくれはる。彩にはそう教えてました。反対に、悪いことしたら、必ずどこかで神様がみてはってバチがあたるんやぞって

はる ……

木田 彩はええ子やったから、今頃、天国の神様の傍で、楽しくやっていると思うんです。

はる そやから、もう泣かんとってください。

はる ……はい

木田 それは私の作った最後の靴です。潰れた工場こうばから必死で運び出した道具も、ここで描いた靴の絵も

はる 全部捨てました

はる 大切に、します

木田 御世話になりました

木田、彩の思い出の詰まった袋を抱くようにして出て行きかけて、振り返り、

木田　　まだどっかに隠れとって、出てくるんちゃうかな、なんて思っただけなんです

去っていく木田の後ろ姿を見送るはる。

はる　　もういいかい？（耳を澄ます）もういいかい？

どんなに耳を澄ませても、聞こえるのは降り続く雨の音だけ。

岡村智美登場。

ブランドのまがい物のような派手な傘。彼女なりの外出着を着ている。

智美　　失礼します。ああ、先生。いはった。よかった。

はる　　？

智美　　岡村です。あの……母親です。ほら、裁判の時に。覚えてます？

はる　　わかりますけど

智美　　あの、今さっき出ていきはったん、あの被害者の？

はる　　……

智美　　やっぱりそう？ いやどないでしょう。私に気付いてはったやろか。

はる 何か

智美 土曜日にここで絵の教室やってはるって聞いてたから、ここに来たらお会いできるかなって。この辺詳しいんですよ。近くに住んでた事もあるし。うちの子はこんなお金のかかる幼稚園には通わせられへんかったけど

はる ご用件は

智美 (菓子折を差し出し) これ、お口に合うか分かりませんが

はる どういう事ですか？

智美 色々御世話になったから

はる 私、何にも御世話なんかしてません

智美 大丈夫。こんなもん一つだけで賄賂にも何にもなりませんから
賄賂？

はる こちらだけじゃないんです。一人一人関係者の方回ってるんです。次の公判にも呼ばれてはるんでしょ
私ほもう何にも裁判で話す事なんかありません

智美 けど、意見聞かれたり、証言したりする事これからありますやん……

はる そういう時あんまりキツイ事言わんといてやってくれませんか

はる ……

智美 本人も可哀相なくらい反省してますから

はる 反省って……

智美 反省するんは第一歩やって弁護士さんも言うてはるんです。明はもうすぐ十八になるから、法律的には大人と一緒に無期懲役とか死刑になる可能性かってあります。まあ、今までの例やと、そこまではない

と思うけど、こっから先はね、裁判官のお考えが全てやから、証言しはる人の言葉がかなり重要になってくる。これも弁護士さんに聞いた受け売りなんですけどね。

はる 私こんな物貰えませんか。お引き取り頂けませんか。もうすぐ生徒さんが来はるんです

智美 生徒さん。……絵のせんせで、保母さんも。いいねえ

はる ……

智美 私も小さい頃、保母さんになりたかったんですよ。幼稚園ごっこか学校ごっこが大好きで……

やりませんでした？先生役。ねえ、やりはったでしょ

はる はあ

智美 やっぱり。女の子はみんなやるんよ。そのあとで憧れたんが、美容師さん。人の髪なんかいじくるの大

好きで。手先が器用なんですよ、これでも。……看護婦さんもええなあ、とか、バスガイドさんやったら出来るかなあ、とか。

はる ……

智美 けど、結局何にもなれへんかった……いくら子供が好きやからって高校生で生むなんてねえ。あんな

ところで躓つまずかへんかったら、私もお宅さんみたいに、先生、なんて呼ばれてたかもしれへんのに。あはっ

そんな事あるはずないか。ないない。そんなわけない。あほやな……全部ね、私みたいなあほな母親のせいやと思ってるんです

はる、智美にティッシュの箱を差し出してやる。

智美 すいません、ご迷惑おかけして

はる (持ってきた土産を) とにかくこれは受け取れませんから

智美 あの子一人の事ですまへんのです。小さい弟らかっているし、主人もね、そのせいで、仕事も探しく

はる いて言うんです。朝から晩までマスコミにつきまとわれるし、ほんまどないしたらいいんでしょう

はる ああ

智美 非常識やってこと位分かってるんです。あの子のせいで、私かてどれだけ苦労してきたか。先生みたい

はる なお嬢さんには分かりませんよ。あげくの果てに人殺しの母親や、言われて。情けないやら恥ずかしいやら

はる そんなん知らんわ！

智美 ……

はる うちの母ちゃんもそっくり似たような事言うてました。今は男の人とどっか逃げてどこにおるか分かり

はる ません。私達を生んだ村の事も、恐ろしい息子の事も全部隠してどっかで暮らしてるんです

智美 ……

はる 兄の事知ってきはったんでしょう。同じ加害者の家族同士仲良く出来るとでも思いはったんですか

智美 いえ、そんな

はる 兄ちゃんは優しいです。色んな事を教えてくれます。兄ちゃんは私の描く絵が面白いって言うてくれま

はる した。はるは、将来絵の先生になったらいいって。学校の掲示板上に張り出された私の絵に誰かがいたず

はる らした時、犯人をみつけてくれたのも兄ちゃんです。…東台という隣の地区に住んでたその男の子は

はる 暫く入院するような大けがをしました。(首を振って) いいえ、乱暴者じゃありません。兄ちゃんは、

はる 私らがばかにされるのがいややっただけなんです

智美

……

はる

暗記してるわ。あの事件の時、何回も何回も聞かれて、その度に同じ事話したから。

(智美に) 兄は盗んだ車で女の人の身体を後ろからはねたんです。そのまま大けがした女の人を車に乗せて長い事長い事逃げ回って……それから……暗い森の中で虫の息になってる女の人の頭に二重にビニール袋被せて、その上から何キロもある大きい石を落としました。合わせて三回も……

智美

私、理由なんか関係ないと思ってます。そんな恥ずかしい迷惑な息子になんて生きてて欲しいんですか？

はる

……そうかもしれない人にはわからへんわ

智美

……

はる

……ついさっき連絡があって、兄が死んだんです。車の事故で

智美

……

はる

私、すごくほっとしました

はる、まっすぐに智美をみつめる。

雨は降り止まない。

黙ってみつめあう、女、二人。

数年後の秋。

季節はずれの蟬時雨が辺りを包んでいる。

歳月を経て、幼稚園はすっかり以前の面影が無くなっている。

庭先に、武男と、人妻風に変貌した絵美子が腰掛けている。絵美子の傍らには買い物袋。メモを書いている絵美子。

武男　　そっか……じゃ、吉田さんとは滅多に会わないんだ

絵美子　お父さんが亡くなって引越しちゃったから。

武男　　でも彼女は元気なんですよ

絵美子　真希ちゃんOLになってバリバリやってるみたいですよ

武男　　（メモを覗き込んで）丹沢町たんざわちやうって言うと、郵便局の向こうの

絵美子　はい。

武男　　へええ

絵美子　え？

武男　　まだ一年ってことは新婚さんだ

絵美子　まあ

武男　　絵美子さんが人妻になってるとは

絵美子　晩婚の方ですよ。はる先生と同年やもん

武男　　そうか。けどあの頃はまだ女子大生みたいな雰囲気やったよ

絵美子

そんなあ

武男

おっとりしてて

絵美子

悩み事なんかなさそうで？

武男

うん

絵美子

そんな風に見られるのが悩みやったんです

武男

ははは

絵美子

（メモを渡し）これ。必ず送ってくださいね、セミナーの案内

武男

はい。今の会社は、対象を主婦に絞ってるから、ダイエット講座も充実してますよ

絵美子

いやや、やっぱり太りました？

武男

しあわせ太りならええやんか

絵美子

そんなん違いますう……はる先生遅いですねえ

武男

話しこんでるんやろか

絵美子

（時計を気にしながら）会いたいなあ。変わりはった？

武男

ん、いや

絵美子

絵は描いてはるんでしょ

武男

家でね

絵美子

個展の案内も送って下さい、是非

武男

ん、暫くは無理そうだけど

絵美子

仲良くしてはるんでしょ

武男

？

絵美子 仲良くしてくださいね

武男 ……はい

絵美子 園長先生は行かなくていいんですか？会長さんのところ

武男 園長じゃないよ。……会長とは何だか気まずくてね。でもはるはなんでか可愛がられてたから。

あの叔母さんに

絵美子 会長さんも寂しいんやと思いますよ。娘婿さんが来年にはここにマンションを建てはるって

武男 なくなってしまうんか

絵美子 使ってもない幼稚園いつまでも置いとく訳にはいかへんみたいですが

武男 そっか

絵美子 あその山にまで道路が繋がる時代ですもんね

武男 ん……

絵美子 (立ち上がって) そろそろいかんと。お姑さんがきはるんです

武男 (上手側の道を見て) こないなあ(携帯を出し) 電話してみよう

絵美子 あっ、いいですよ。せっかく会長さんと久しぶりやのに。(立ち上がって) 何かある時必ずご案内下

さい。きっと又お会いできるって信じてます

武男 十年振りに来て、ばったり会う位ですもんね

絵美子 はい。ほしたらはる先生によろしく

武男 どうも

絵美子、去る。

武男立ち上がり、何となく幼稚園の中へ足を踏み入れる。
感慨深く辺りを見回し、長らく使われていない椅子に腰掛けてみたりする。

武男 ……今日からみんなは、わかばようちえんの子供です……あさ来たらかならずげんきに「あいさつ
しましよ。ごはんは残さずたべましよ。はみがきしましよ。何か困ったことがあったら、いつで
も園長先生にそうだんしてください。分かりましたか

臨月のはるが、いつのまにか後ろに立っている。

はる はい、園長先生

武男 なんや、びっくりした

はる 庭にいなかったから。……懐かしいなあ

会長お元気やったよ。髪は全部真っ白なってたけど。隠居すると暇で暇でつて。タケちゃんに会いたが
つてた

武男 今さっきまで、絵美子さんがおってんで

はる 絵美子さんて

武男 金井さん、（博多弁の）

はる んん

武男 その角でばったりあったんや。結婚して丹沢町の方に住んではるねんて
はる そう……（そつと夫の近くに腰掛ける）

武男 彼女もお前に会いたがってた

はる ……懐かしいなあ。

さかんに虫が鳴いている。秋風がそよいでいる。

はる、前方の山を眺めて

はる もう秋やのに

武男 ん？

はる よう鳴くねえ……蝉

武男 最後の悪あがきや

はる 何か可哀相

武男 なにが

はる 何となく。……どうする？

武男 ん……山登りなんかやっぱりきついんちやうか

はる お医者さんにちゃんと了解とってきたで

武男 けど、前の事もあるし

はる 大丈夫。今度は絶対生まれてきてくれる。そんな気がするんよ

はる、バッグから小さなカセットデッキを出しいじくって、

はる　これ、壊れちゃった

武男　どれ（あちこち触ってみるが、動かない）こんなとこまで持ってくる事ないやろ
はる　ここでも何か吹き込みたかってん

武男　生まれてきてからようさん話せばいいやろ

はる　今は今だけやもん。今の気持残しておきたいねん

武男　（匙を投げて）あかんな。新しいの買え。こんな古典的なんとちごて
はる　大事にしてたのになあ

武男　しゃあない、寿命や

はる　寿命か……山がなんか思ったより近く見えるねえ

武男　ああ

はる　残ってるやろか、森みたいなお墓。タケちゃんが泣いたお宮さん

武男　……

はる、ピクニックにでも来たように、のんびりとペットボトルを出し、うまそうに飲む。

武男にも差し出してやる。武男、ごくごくと飲む。

はる　そんなに咽渴いだったん？

武男　ん？　うん

はる　なあ、どうしますか、お父ちゃん。

武男　……

はる 行こうよ、今行かな道路が通って全部無くなってしまふんやろ

武男 ……咽が渴いて渴いて、お宮さんの水をごくごく飲んだんや。通りかかったきれいな女の人に「不潔」

って言われた。汚い」って

はる ……

武男 それだけやったんや……けどその人の弟が同じクラスにおって、ばかにされた。西台の貧乏人はいつ

つも墓でコソコソ、供え物盗んで生きとう罰当たりばちあたりやって。臭いやの汚いやの……。サトシが決着つけ

たるいうて車盗んで女の人待ち伏せして……全部俺のせいやったんかもな

はる ……

夜中にサトシに呼び出されて森に行った

はる タケちゃん

武男 あっここに埋めてしまおって言うたん俺なんや

はる 森のお墓に埋めたら天国へ行けるって思ったからやろ。ブチ猫やひよこさんみたいに

武男 ……

はる 誰の為でも、何の為でも私は兄ちゃんがやった事を許さへん。理由なんか関係ない

兄ちゃんは白い煙になって、やっと私の好きな兄ちゃんに戻ったんや

武男 ……

はる、立ち上がって、山の彼方をみつめる。

はる 神様の水は咽の渴いた旅人の為にあるんや。汚くなんかない。そうやる？

武男 ああ

はる お宮さんのお菓子はおいしかったなあ。でも誰が供えてたんやろ。あの時からずっと不思議やった。

時々思うんよ。私らはほんまにあのお菓子を食べたんやろか。

お宮さんなんかほんまはなかったんちゃうやろか

武男 そんな事ない。俺はあそこからお菓子や蠟燭を盗んだ。コップに入った水をごくごく飲んだんや

はる ほんまに？

武男 ああ

はる 全部嘘みたいや。あの森の事も、町に憧れてた事も、ここで何年も過ごした事も、結婚して、お腹にい

たはずのあの子がいなくなって、それから

武男 嘘とちゃう

はる ほんまに？

武男 ほんまや、俺らは森を出て町に来た。結婚して、働いて、何年も二人で頑張って、また新しい命を授か

った

はる 俺らって？

武男 俺とお前

はる 俺って誰？

武男 小川武男。はるの夫。その子の父親

はる 私は小川はる。武男の妻。この子の母親

武男 俺らはちゃんとここにいます。これからは三人で生きていく

はる この子に何かがあったら、あなたには何が出来る？

武男 ……

はる 私は、人魚になる

武男 ……

戸惑いながら、妻をみつめる武男。

はる 行こ。お腹空いてきた

武男 山は……？

はる この子が無事に生まれて、少し大きくなったら、ドライブしよう
新しい道路をのぼって、山のとっぺんから町を見下ろしてみよ

武男 そうやな

はる、照れる夫を無理強いして手を繋ぐ。

武男、先にたつて前方より庭先にトンと下りると、妻を抱き上げるようにして下ろしてやる。
引っ張られるように歩き出した武男、ふと山を振り仰ぐが……

二人の去った後には、古めかしいカセットデッキがポツンと置き去りになっている。

間

明かりが変わっていく。

下手より、一人の男登場。木田恭一である。奥のベンチに腰掛け、鞆から本を出し。ページを開く。

ややあって、上手より岡村明登場。サラリーマン風。すっかり大人になっている。彼は、幼稚園の庭先に当然のように腰を下ろし煙草を吸う。デッキに気付いて手に取るが、どこかを押したきり、すぐに興味を無くして放り出す。携帯をポケットから出していじくりはじめる。

木田 ……あの、すみません。駅はどっちでしょうか

明 えっ、何？（と、携帯が鳴り）あ、もしもし。うん、大丈夫大丈夫休憩中（受話器に言いつつ、面倒くさげに手で駅の方向を示す）

木田 ……

明 メール？ 来たで。そやから留守電入れたんやんか。……うん、そうそう、そういう感じ。

え？あほ、そこまではいってないって、ははは、あほか何言うとうねん。それはお前やる……うん、うん、わかった。明日でええの？ 仕事？ 休めるよ、楽勝楽勝……

何気なく視線をあげた明の目に、自分を見つめる木田が映る。

明、やっと気付いて、驚愕の表情を浮かべる。

明 ……あつもしもし、あ、あとでかけ直すわ（電話を切って立ち上がる）

あつ駅ですよ。そこ出てコンビニの角曲がってまっすぐやから、

終わりの方はしどろもどろになって後ずさりするように去っていく明。

木田、一瞬見送ってから、静かに後を追う。彼の手には刃物が握られている。

静寂。風の音だけが聞こえている。

と、ザーツという雑音とともに、放り出されたカセットデッキがゆっくり動き出す。

その声は雑音に紛れて明瞭でないが、やがてはつきりしてくる。

はるの声

（……）人間は、この世界の中で一番やさしいものだときいている。そしてかわいそうなものや頼りないものはけっしていじめたり、苦しめたりすることはなくときいている。………

一度、人間が手に取り上げてくれたら、決して無慈悲に捨てることもあるまいと思われる。人魚は、そう思ったのであります。

雷鳴が轟く。

その余韻が消えると……

誰もいないベンチに、柔らかな秋の日差しが差し込んでいます。

幕

その声は雑音に紛れて明瞭でないが、やがてはつきりしてくる。

はるの声

(……) 人間は、この世界の中で一番やさしいものだときいている。そしてかわいそうなものや頼りないものはけっしていじめたり、苦しめたりすることはなくときいている。………

一度、人間が手に取り上げてくれたら、決して無慈悲に捨てることもあるまいと思われる。
人魚は、そう思ったのであります。

雷鳴が轟く。

その余韻が消えると……

誰もいないベンチに、柔らかな秋の日差しが差し込んでいる。

幕

